

SINOPSIS

口から日本語の慣用句の意味分析

トリ・ジョコ・プルボヨ

20130830048

要旨

慣用句や表現は、コミュニケーションに広く使われている。たとえば、多くの日本人は、文章や日常会話で慣用句を使用している。慣用句と呼ばれる日本語の慣用句は、二つの単語全体の意味は、彼が特別な意味を表現していること以上の組み合わせである。日本語では、四肢を指す慣用句が豊富に見られる。例えば、口単語を使用してイディオム。口だけで味の感覚として解釈されていない、それが言葉としてである可能性がある。そこで、筆者は、単語の意味の慣用と語彙的な意味での意味の口用語を使用して慣用句の分析に興味を持っている。

使用されるこの研究アプローチにすることによって形成された慣用句前記口を記述する記述定性的である。文献調査の技術を使用してデータを収集した後、記述分析技術を使用してデータ分析技術を進める。

語彙の意味とその慣用的意味との間に生じる意味の拡張に基づく慣用句の分類は、意味を隠喩的に拡張することを含む：口がうまい、口が堅い、口が軽い、口が過ぎる、口が悪い、口がうるさい、口に合う、口に気を付ける、口車に乗せる、口お切る、口を出す、口を挟む、口を脱ぐと口を揃える。意味の韓愈拡張に基づいた分類は、口が滑る、口が重い、口がおごる、口がかかる、口が寂しい、口が減らない、口が酸っぱくなる、口にする、口に任せる、口を利く、口の下から、口を封じる、口を腐つてもと口から先に生まれる。提喩での意味の拡大については、結果はないである。

キーワード：慣用句、隠喩、韓愈、提喩

口から日本語の慣用句の意味分析

トリ・ジョコ・プルボヨ

20130830048

1. 序論

交流は人間によって、元も大事なことである。交流の中シンボルを取り替えの経過がある。そのシンボルとは話言葉のシンボルとか書き言葉のシンボルとか交流の経過非常に必要なことと考えている。必要な取り替えのシンボルの数は算数ことができない。しかし、交流の中に話言葉のシンボルと書き言葉のシンボルがみえる。人間の交流経過を学びたいなら、終わらせずのよりの問題だと思う。

交流とは人間関係立てるために非常に必要なことと考えている。なぜなら Sutedi (2008:158) 言語とは交流経過の人間の道具、他の人に言いたいことをつかう。言語とは人間の生活の中には元も大事なことである。その全は交流経過のために使っている。そのため、言語は人間の交流経過の道具だと思う。その道具に関しては人間の言いたいことをあらわれる。

言語あるから、私たちの考え方、心のことば、何か言いたいことを分かれると考えている。言語とは交流経過だけじゃなく、自分の身元とか自

分の主義が表れている。言語の中に私たちは慣用句の言葉をよく聞いているだろう。

慣用句とは、習慣として長い間広く使われてきた、ひとまとまりの言葉。文句や言い回しのことで、類語に成句や成語がある。慣用句は比喩性を帯びている。つまり、句を構成する要素の意味が比喩的意味に転用されてしまうため、言語の現象として特別である。また、長い言葉で説明しなければならぬ必要がなくなる。そして慣用句は滑らかな会話の潤滑油のようなものである。

日本語の慣用句に対するこれまでの研究では、「目が肥える」のように、構成要素の意味が全体の慣用的意味の一部に貢献している（分解可能である）が、その語の結び付きが慣習的に定着しているような表現（「連語」）は、意味と形式がある程度固定しているという点では広義の慣用句に含まれるが、「慣用句は構成要素の意味から全体の意味が引き出せない」という定義に反するものとして慣用句とは区別され、詳しく論じられてこなかった。

私達の周りに物の言葉の慣用句が多くてしかし、元も使われる慣用句は体の慣用句だと思う。慣用句学ぶ時に元も使われるメディアは慣用句辞典である。この辞典の中に多くの慣用句の例がある。

しかし、元も大変難しい問題は慣用句のことを説明したいときだと思う。学生はよくそのままの意味を読んで、なぜなら、本当の意味は届けな

いなる。このような場合はすこし問題になる。なぜなら、慣用句を読む時にそのままの意味を見るならできないと思う。間違いの情報を聞くなら、問題になると考えている。

本研究の目的はなんだろうか。

1. 口からの慣用句をわかる。
2. 口からの慣用句の語意的意味と文法的意味をわかる。

本研究を説明する後に、本研究の利益が二つに分ける。理論上の利益と実用的な利益である。

A. 理論上の利益と

1. 研究者にとって、慣用句のインフォメーションを上げる。
2. 研究者の日本の慣用句の考え方も上がってほし。

B. 実用的な利益

1. 研究者に

会話でよく日本の慣用句をつかってほし。

2. 学生に

本研究読んだ後に会話でよく日本の慣用句をつかってほし。

3. 教室に

教材の参照を作るためである。

2. 本論

本研究の接近は Deskriptif Kualitatif をつかう。研究のデータは慣用句の本と慣用句辞典を集まっている。研究の方法は研究のデータは慣用句の本と慣用句辞典を集まって、そして、このデータの意味分析を調べたいと考えられる。研究の技能は慣用句の意味分析がそのままを見せられている。分析によると、くちから慣用句のデータは 28 が見つける。

テーブルの分析のデータ

番	データ	語彙的意味	慣用的意味	意味の使用		言語スタイルの使用		
				ML	MI	比喻	隠喩	勧誘
1	口がうまい (<i>Kuchi ga umai</i>).	mulut enak	pembicara yang lihai, bermulut manis		√	√		
2	口が堅い (<i>kuchi ga katai</i>).	Mulut keras	Tutup mulut, dapat menyimpan rahasia		√	√		
3	口が軽い (<i>Kuchi ga karui</i>)	Ringan mulut /ember	Tidak dapat menutup mulut, tidak dapat menyimpan rahasia		√	√		
4	口が過ぎる (<i>Kuchi ga sugiru</i>).	Banyak mulut, keterlaluhan	Banyak bicara, keterlaluhan dalam berbicara	√	√	√		
5	口がうるさい (<i>Kuchi ga urusai</i>)	mulutnya berisik	keadaan seseorang yang tidak bisa diam melihat apa yang dilakukan orang lain.	√	√	√		
6	口が悪い (<i>Kuchi ga warui</i>)	Mulut jelek	Bermulut busuk, tukang mengkritik		√	√		

7	口が滑る (<i>Kuchi ga suberu</i>)	Mulutnya keseleo	Ceplas-ceplos, asal bicara, ngawur		√		√	
8	口が重い (<i>kuchi ga omoi</i>)	mulutnya berat	seseorang yang tidak terlalu banyak bicara atau pendiam		√		√	
9	口が奢る (<i>Kuchi ga ogoru</i>)	mulutnya royal / selera tinggi	keadaan seseorang yang sering makan makanan lezat sampai makan makanan yang lainpun akan terasa biasa saja.	√	√		√	
10	口が掛かる (<i>Kuchi ga kakaru</i>)	mulutnya bergantung	tawaran yang diberikan untuk dapat tampil di panggung, tawaran pekerjaan		√		√	
11	口が寂しい (<i>Kuchi ga sabishi</i>)	mulutnya sepi	seseorang yang tidak merasa puasa apabila tidak ada sesuatu yang dimasukan kedalam mulutnya.		√		√	
12	口が減らない (<i>Kuchi ga heranai</i>).	Mulut tidak tersumbat / tidak berkurang	Tukang ngoceh, cerewet		√		√	
13	口がすっぱくなる (<i>kuchi ga suppaku naru</i>).	Sampai asam mulutnya	Berbicara itu-itu saja, berulang-ulang bicara itu melulu	√	√		√	
14	口に合う (<i>Kuchi ni au</i>)	Cocok di mulut	cocok di lidah, cocok dengan selera	√	√	√		

15	口にする (<i>Kuchi ni suru</i>)	melakukan di mulut	1. Mengungkapkan dengan mulut 2. merasakan makanan yang telah di masukan ke mulut 3. makan, memberi makan		√		√		
16	口に気をつける (<i>Kuchi ni Ki o Tsukeru</i>)	Hati-hati dengan mulut	hati-hati dalam berbicara	√	√	√			
17	口に任せる (<i>Kuchi ni makaseru</i>)	menyerahkan ke mulut	berbicara sesuka hati (tanpa berfikir panjang)		√		√		
18	口車に乗せる (<i>Kuchi guruma ni noseru</i>)	mulut mengendarai mobil	mengatakan hal baik untuk menipu lawan		√	√			
19	口を利く (<i>Kuchi o kiku</i>)	mulut menguntungkan / berfungsi	bercerita, bermediasi	√	√		√		
20	口を切る (<i>Kuchi o kiru</i>)	memotong mulut	1.membuka sumbat botol yang belum terbuka 2.membuka pembicaraan pertama kali di muka umum		√	√			
21	口を出す (<i>Kuchi o dasu</i>)	Mulutnya keluar	ikut campur urusan orang		√	√			
22	口を挟む (<i>Kuchi o hasamu</i>)	Menjepit mulut	1. mengatakan sesuatu menyela di tengah percakapan 2. ikut campur		√	√			

23	口の下から (<i>Kuchi no sita kara</i>)	dari bawah mulut	Keadaan mengucapkan dan melakukan hal yang berlawanan		√		√	
24	口を封じる (<i>Kuchi o fuujiru</i>)	menutup mulut	berusaha agar orang lain tidak mengatakan hal yang tidak baik tentangnya	√	√		√	
25	口を拭う (<i>Kuchi o nugu</i>)	menyapu / mengelap mulut	berpura-pura tidak mengetahui, atas kesalahan yang dilakukan olehnya		√	√		
26	口をくさっても (<i>Kuchi o kusattemo</i>)	walaupun mulutnya sampai busuk	keadaan seseorang yang tidak membuka rahasia meski apapun yang terjadi.	√	√		√	
27	口を揃える (<i>Kuchi o soroeru</i>)	menyamakan mulut	keadaan dimana dua orang atau lebih mengatakan hal yang sama di waktu yang sama	√	√	√		
28	口から先に生まれる (<i>Kuchi kara saki ni umareru</i>)	mulutnya duluan lahir	dilahirkan untuk berbicara		√		√	

3. 結び

Garison の日本のイディオムの本、イディオム日本は 14 のイディオム、すなわち、とりわけ、口の言葉を用いた言語：口がうまい、口が堅い、口が軽い、口が過ぎる、口が悪い、口が滑る、口が減らない、口がすっぱくなる、口に合う、口にする、口に気をつける、口を出す、口を挟む、口から先に生まれます。発行者によって発行された慣用句辞典の間にダイソー2004 はまた、とりわけ、口の言葉を使用して 14 のイディオムが含まれ、口がうるさい、口が重い、口が奢る、口が掛かる、口が寂しい、口に任せる、口車に乗せる、口を利く、口を切る、口の下から、口を封じる、口を拭う、口をくさっても、口を揃える。理論 Momiyama によると idiomatikal スタイルの隠喩、換喩、提喩に示す字句の意味と重要性の関係があります。この口単語から形成される慣用句の意味の分析に比喻ない提喩に展開したイディオムのために、一方 15 の拡張、換喩による伸長 13 があります。

次のように比喩的に拡大し、韓愈を受けイディオムについて、次のとおりです。

- 1) 隠喩：口がうまい、口が堅い、口が軽い、口が過ぎる、口がうるさい、口が悪い、口に合う、口に気をつける、口車に乗る、口を切る、口を出します、口を挟む、口を拭う、口を揃える。

- 2) 換喩：口が滑る、口が重い、口が奢る、口が掛かる、口が寂しい、口が減らない、口がすっぱくなる、口にする、口に任せる、口を利く、口の下から、口を封じる、口をくさっても、口から先に生まれる

慣用句を理解し葉切りするために、隠喩、韓愈、提喩の各専攻を用いて、語彙の意味と漢語からの慣用的意味との関係を学ぶべきである。日本の語学学習プログラム、ムハンマディヤ・ジョグジャカルタ大学の図書館で借りることのできる日本語のイディオムに関する辞書や参考書を持つ学生を助ける。

本研究では、その意味だけからかんゆうを分析するだけで、関東の出現の起源について議論し、また、社会の文化や習慣の要素に着目してイディオマティカルニヤの意味を分析する研究が期待される。また、インドネシアでの等価物についてさらに検討する予定である。

参考文献

- 一ミニ辞典シリーズ慣用句辞典. (2004). Hiroshima: Daiso.
- Garrison, J. (2006). *Idiom Bahasa Jepang Memakai Nama-nama Bagian Tubuh*. Bekasi Timur: Kesaint Blanc.
- Pateda, M. (2001). *Semantik Leksikal*. Jakarta: PT Rineka Cipta.
- Sutedi, D. (2008). *Dasar-Dasar Linguistik Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.